

EdTech 導入補助金2021

令和2年度3次補正 学びと社会の連携促進事業
(先端的教育用ソフトウェア導入実証事業) 費補助金

効果報告レポート

【事業者名】

HelloWorld株式会社

【ツール名】

世界の教室を繋ぐWorldClassroom

【ツールの機能分類】

オンライン語学学習

2022年2月



世界の教室をつなぐ
オンライン国際交流プラットフォーム

授業が
変わる
世界が
広がる

世界の教室をつなぐ
WORLD CLASSROOM

WorldClassroomとは、音声認識技術等を用いたスピーキング練習機能や世界中の同世代との国際交流機能が実装された英語教育DXクラウドシステム。名護市を始めとする県内中学校・高校や自治体の国際交流事業で導入され、スピーキング能力や非認知能力（動機付け等）の向上や、パフォーマンステスト実施や評価付けにかかる業務時間が大幅に縮小される効果が出ている。

世界の教室と繋げて

ICTの力で、実践的な英語学習を実現！



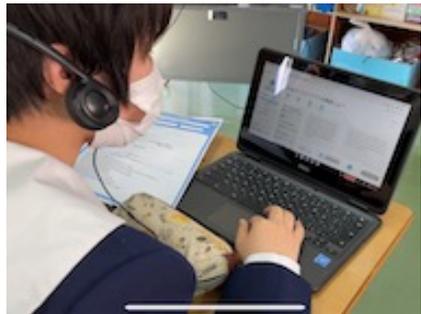
- 93.2%の生徒がWorldClassroomで英語を学習する目的・意味が明確になったと回答
- 89.8%の生徒がスピーキング練習によって英語で話すこと・発表することに自信がついたと回答
- 教員の業務負担を年間100時間以上削減可能

先生 POINT

- 生徒の学習状況を可視化！
- 評価付けを客観的なデータでサポート！
- 単元毎のプロジェクトやパフォーマンステストに活用！

生徒 POINT

- ゲーム感覚で実践的な英語学習！
- 実際に海外の生徒とつながる！
- 学習状況を可視化し、モチベーションUP！



最新技術で英語学ぶ 名護・大宮中で実証実験

【名護】名護中学校と大宮中学校で、IT企業「Hello World（ハロワールド）」が開発したソフトウェア「ワールドクラスルーム」を活用した英語教育の実証実験が行われる。来年3月末まで。最新の音声認識技術を使い、生徒それぞれに合った学びを後押しすることや、自動評価システムによる教員の負担軽減が目的。

同社は県内で唯一、経済産業省の「先端的教育用ソフトウェア導入実証事業」の補助金交付事業者に選ばれた。ネットタイプの発音を聞きながら話す練習をし、正確性を点数化する「個別練習」や、発表を動画で撮影し、他の生徒や先生と共有する「発表・共有」の機能がある。年明けには、海外の生徒とのオンライン交流も予定している。

同社の野中光代表は、先生一人が生徒何十人の会話を毎回聴いて評価するのは難しいとして「ソフトウェアを活用することで、生徒一人一人に合った学習ができる」と話す。名護中では15日、ソフトウェアを使った授業が行われ、生徒たちが音読練習していた。同校の松田千草教諭は「学習の結果が目に見えて、生徒のモチベーションアップにもつながる。今後、海外の人とも交流できる」と話した。

個別練習

My Work

音声認識技術を用いたプレゼン練習!

お手本になるネイティブの発音を聴きながらスピーキング練習ができます。生徒のスピーキングの正確性をシステムが自動で点数化します。可視化された練習の成果を見ることができ、ゲーム感覚で生徒のやる気を駆きたてます。



音読練習

帯学習に取り入れスピーキング力を向上!

毎日5分間、教科書の文章等を音読練習することで、日々の学習を記録し、可視化された練習結果を振り返ることで成長を実感することができ、生徒の自己肯定感とモチベーションを向上させます。



実践的交流

WorldClassroom

海外の生徒に実際にプレゼン!

実際に海外の教室とオンラインで繋ぎ、練習したプレゼンを実際に海外の生徒に披露できます! 1対1での実際のコミュニケーションを通じて、生きた英語を学ぶとともに英語学習の意欲を向上させます。日本にいながら、気軽に海外の同世代と交流できます!



評価自動化

Student Performance 生徒の練習データを可視化!

英語の4技能5領域においてSpeaking (発表およびやりとり) の評価付けは教員にとって大きな手間がかかっていました。システムを用いることで評価の判断材料となるデータを自動的に取得することが可能になり、教員の業務負担軽減に繋がります。



(1) 教員の業務負荷の高さ

教員の長時間労働は慢性的に問題視されています。2019年1月には中央教育審議会が「学校の働き方改革」に関する答申を行い、勤務時間管理に関するガイドラインを示しています。

しかしながら、実際には、新学習指導要領の運用に伴い、学校現場ではこれまでの業務（授業、授業準備、生活指導、保護者対応、部活動、事務など）に加えて更に多くのことが求められています。例えばカリキュラム・マネジメントの方策として「学校教育の効果を常に検証して改善する」ことが求められますが、質の高い効果検証はICTの活用なしにはどれだけ時間を使っても実現は困難です。

(2) 「発表」や「やりとり」の評価が難しい（1人の教員で40名の評価が難しい）

英語の授業では、テスト以外でパフォーマンステストと呼ばれる実践活動があり、その内容も指導や評価の対象となっていますが、「書くこと」や「話すこと（発表とやりとり）」の評価付けにおいて、教員の負担が特に大きいのが実情です。

現状ライティング（「書くこと」）においては、生徒1人ひとりの英文を教員が添削しており、プレゼンテーション（「話すこと」）については、「生徒1人ひとりの発表内容を録画し、授業外で全員分の動画を見返して、発話した単語数を1つ1つ数えて評価付けをしているが、いくら時間があっても足りない」という教員からの困惑の声が出ています（これらの声は実際に弊社が英語教諭にヒアリングした生の声です）。このように、ICTの力を駆使すれば飛躍的な効率化が可能な作業に英語教諭の可処分時間の大部分が充てられてしまい、生徒への手厚い指導がしたくてもできない状況に陥っています。

(3) 生きた英語を学ぶ機会が少ない

学校にALTが配置されておりますが、人員数、予算に限りがあり、生徒が実際に学んだ英語を使って自らの意見を伝える、コミュニケーションをする機会が乏しいのが実情です。例えば、実際の英語の授業では、節目節目で、プレゼンテーションやディスカッションなどのプロジェクトがありますが、実際に英語を使う相手は日本人のクラスメイトになります。

これでは、実際に、生の英語に触れる機会、実際に学んだ英語を使う力を獲得することは困難です。

活用シーン①

教科書等音読練習

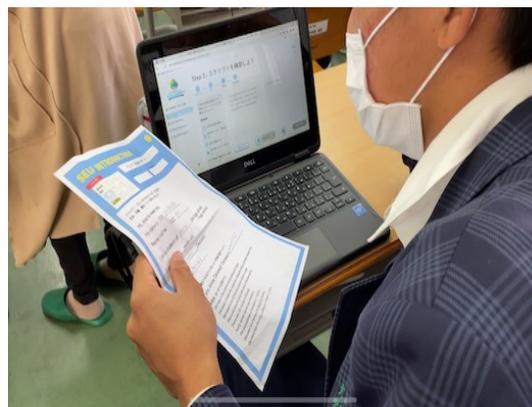
事前に教科書の文章を教員がWorldClassroomのプロジェクトとして登録し、教科書の音読練習として活用しました。
また、帯学習として、毎回の授業の冒頭5分間を活用し、キーセンテンスを反復的に音読練習させる用途でも活用しました。



活用シーン②

プレゼン練習・テスト

単元内の「Small Talk」や「Our Project」等スピーキングやライティングを行うプロジェクトにおいて、WorldClassroomを用いて生徒の作成した原稿についてプレゼンテーション練習を行いました。また、パフォーマンステストについてもクラスの生徒が同時に行い、評価付けまでシステムを活用して行いました。コロナによるリモート授業期間においても、WorldClassroomを用いたパフォーマンステストを実施しました。



活用シーン③

海外学校交流等

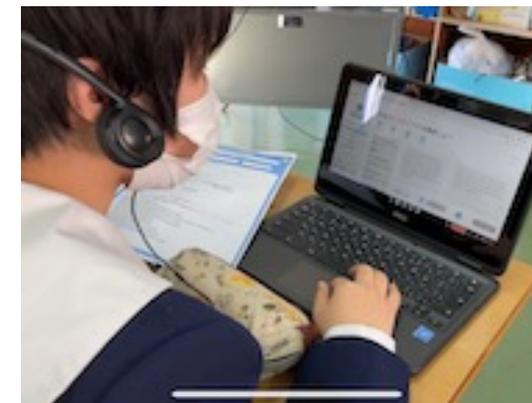
WorldClassroomで練習したプレゼン練習の成果を、実際に海外学校との交流で披露。名護中学校はトルコ、大宮中学校はミャンマーと繋ぎ、交流しました。
生徒たちは、海外学校と交流することを目的にプレゼン練習を行い、実際に英語でプレゼンすることで、英語学習の目的がテストの成績ではなく、海外の人とコミュニケーションすることにあることを学びました。



活用シーン④

その他英検指導等

英検の2次試験（音読及び面接）やスピーチコンテストの指導は、通常、教員が朝の登校時間前や放課後、土日祝祭日を活用して生徒の対応を行っていますが、今回はシステムを活用して、音読練習などを自主学習させることで教員の時間外労働を縮減させることが可能になりました。



サポート①丁寧な問い合わせ対応等

WorldClassroomを活用した指導計画策定支援等

相談問い合わせ対応などとして授業におけるWorldClassroomを活用方法を英語教員と検討し、指導計画を検討しました。授業において継続的に行うプレゼンテーション練習や、パフォーマンステストでの当システムを活用した評価付けの方法について検討しました。



サポート②丁寧でわかりやすい操作説明等

基礎操作の説明・助言等

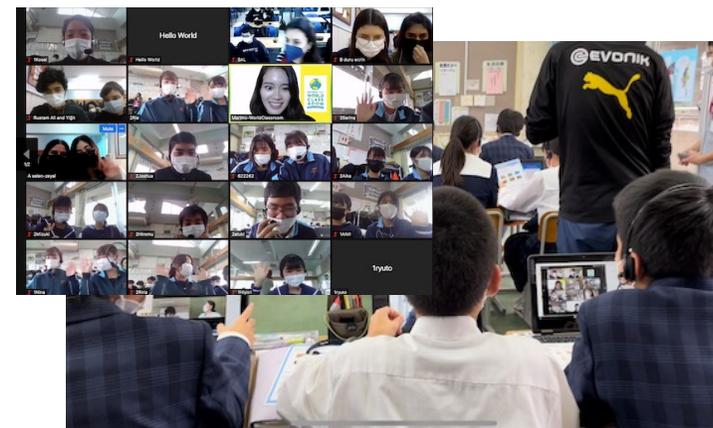
教員や生徒がWorldClassroomを活用できるように、授業に立ち会うなどしながら操作説明、フォローアップを実施しました。また、最初と中間に説明を行うことで、ついていけない生徒がいないように工夫を行いました。



サポート③丁寧なフォローアップ等

海外学校交流の事前調整、コーディネート、説明資料作成等

海外学校交流に向けて、事前に海外校とのアレンジ、日程調整等のフォローアップを行い、授業における生徒のモチベーションを高め、説明資料の作成等を行いました。また、円滑な実施のために定期的にシステムの保守・メンテナンス等を行いました。



先生のコメント（名護中学校 英語教諭 松田千草 先生）

「今回の補助事業では、WorldClassroomを日々の音読練習、単元最後のパフォーマンステストにおけるプレゼンテーション原稿の作成・練習、評価付けなどに活用しました。また、日々の授業やこれからの練習の実践の場としてトルコの学校との交流プログラムも実施しました。海外学校交流でのコミュニケーションを円滑にするために単元と結びつけて授業の中で自己紹介や、**沖縄・日本の紹介プレゼンテーション**を作りました。その原稿作成のスライドについてもHelloWorld社にテンプレートを用意していただきました。原稿完成後はシステムを活用し、スピーチ練習・グループ発表の後で本番の海外交流を行いました。」

本事業を活用し、下記の学校（名護教育委員会）に導入

- ・ 名護市立名護中学校（3年生33名）
- ・ 名護市立大宮中学校（2年生28名）

本事業の活用は次年度の導入に向けたトライアルとしての位置付けの意味もあったため、上記中学校での限定的な導入であったが、結果として、名護教育委員会の指導主事や担当の英語教諭の先生方からは、「全ての中学校、全てのクラスで導入したい！」との声をいただきました。

この声を受け、来年度の事業化に向けて現在、調整を進めております。

考察1：教員の業務負担軽減につながる

本事業に取り組んだ英語教員にアンケートを実施したところ、授業準備、パフォーマンステスト及び授業外教科指導について、いずれも5割以上削減することで、今後はさらに多くの時間を縮減できるということが分かりました。単元の授業準備で2時間、パフォーマンステストで5時間と合計7時間の縮減ができ、1学年10単元あるため、年間70時間となり、スピーチコンテストの指導で50～100時間程度指導を行うなど授業外の時間も含めると、120～170時間の働き方改革を実現することができることになります。

【教職員の働き方に及ぼした変化（教員へのアンケート結果）】

	設問	名護	大宮
1	WorldClassroomを活用することで、 授業準備を何割程度効率化 することができましたか。	60%	70%
2	WorldClassroomを活用することで、 単元あたり授業準備を何時間程度削減 することができましたか。	2h	2h
3	WorldClassroomを活用することで、 今後の授業準備を何割程度効率化 ことができそうですか。	50%	50%
4	WorldClassroomを活用することで、 今後の授業準備を何時間程度効率化 ができそうですか。	3～4h	4～5h
5	WorldClassroomを活用することで、単元あたり パフォーマンステストを何割程度効率化 することができましたか。	70%	80%
6	WorldClassroomを活用することで、単元あたり パフォーマンステスト準備・評価付けを何時間程度削減 することができましたか。	1h	2h
7	WorldClassroomを活用することで、 今後単元あたりパフォーマンステストを何割程度効率化 ができそうですか。	80%	50%
8	WorldClassroomを活用することで、 今後単元あたりパフォーマンステストの準備・評価付けを何時間程度削減 ができそうですか。	2～3h	3～4h
9	WorldClassroomを活用することで、英検やスピーチコンテスト準備などの 授業外の学習指導を何割程度効率化 することができましたか。	50%	50%
10	WorldClassroomを活用することで、英検やスピーチコンテスト準備などの 授業外の学習指導を、今後何割程度効率化 できそうですか。	80%	50%

考察2：パフォーマンステストの運用・評価づけを効率化

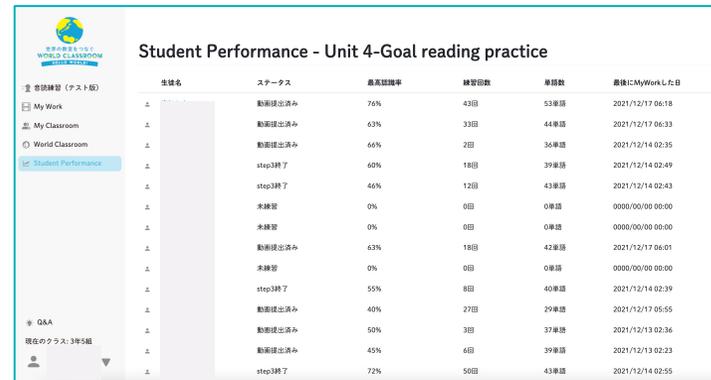
WorldClassroomを用いてパフォーマンステストを実施することによって、教員の管理画面に生徒毎の練習回数、最高認識率(原稿と発音の一致率)、練習回数、原稿の単語数が集約され、パフォーマンステストの結果をひと目で把握することができ、評価づけにかかる時間を縮減することができます。また、学級内の生徒の習熟度の異なる場合においても、管理画面の各種データから支援が必要な生徒を把握し、適切な指導を行うことが可能になります。

【WorldClassroom活用によるパフォーマンステスト準備・評価づけの効率化・時間削減について（教員へのアンケート結果）】

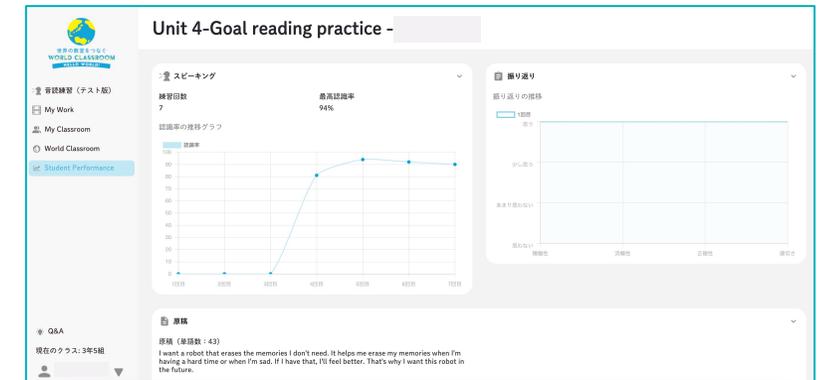
設問	名護	大宮
5 WorldClassroomを活用することで、単元あたりパフォーマンステストを何割程度効率化することができましたか。	70%	80%
6 WorldClassroomを活用することで、単元あたりパフォーマンステスト準備・評価づけを何時間程度削減することができましたか。	1h	2h
7 WorldClassroomを活用することで、今後単元あたりパフォーマンステストを何割程度効率化することができそうですか。	80%	50%
8 WorldClassroomによって、今後単元あたりパフォーマンステストの準備・評価づけを何時間程度削減することができそうですか。	2~3h	3~4h



WorldClassroomを用いてパフォーマンステストを出題することができる。



教員の管理画面に生徒毎の練習回数、最高認識率(原稿と発音の一致率)、練習回数、原稿の単語数が集約。



生徒の練習回数毎の認識率や、発話した英文についても把握することができ、支援が必要な生徒の指導を効率よくできる。

考察3：生きた英語にふれる機会を増やし、英語学習の動機付けを向上

これまでの英語の授業では、ALT以外の外国人との交流の機会はありませんでしたが、WorldClassroomを活用することで、海外の同世代（名護中：トルコ、大宮：ミャンマー）と交流することが可能になりました。プレゼンテーションの練習においては、実際の海外交流が予定されているため、大宮中にて平均練習回数約27.5回、伸び率約29.4%となるなど、真剣に練習に取り組む様子が見られました。一連の取り組みを通じて、93.2%の生徒の英語学習の目的意識に前向きな変化が見られ、約71.2%の生徒は英語で話すこと・発表することに自信がついたと回答しました。名護中学校での教科書の音読練習においても平均練習回数約29.1回、伸び率約27.7%と変化が見られた。

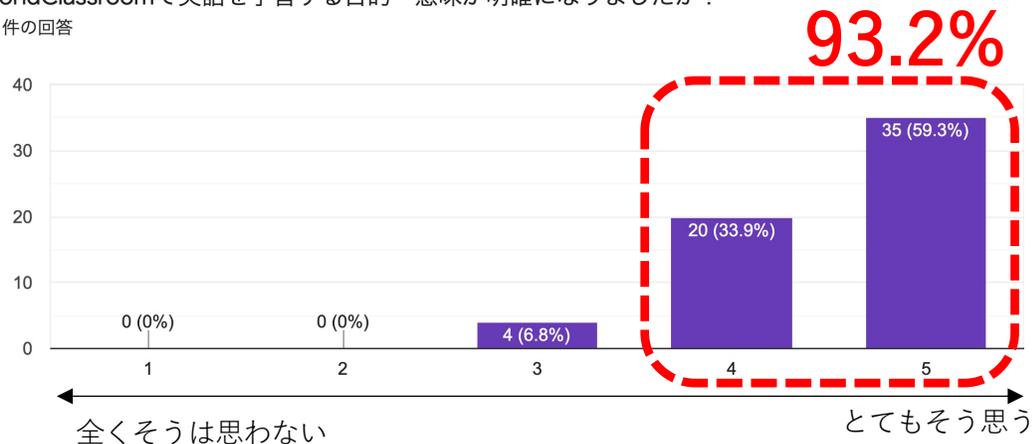
●WorldClassroom活用状況と定量的変化（クラスの平均値）

	大宮中学校	名護中学校	備考
海外国際交流	0回→1回	0回→1回	海外校との交流を目的にすることで英語学習の動機付け、モチベーションアップ
認識率 (初回→最高)	37.8%→67.2%	45.1%→72.9%	実際の生徒の成長過程が可視化
伸び率	約29.4%	約27.7%	海外校との交流を意識させることで成長の度合い（認識率の変化値）が大きい
練習回数	27.5回	29.1回	これまでペア学習などでの数回の練習にとどまっていた練習がシステム使用により大幅増

児童・生徒の学び方に及ぼした変化（生徒のアンケート結果）

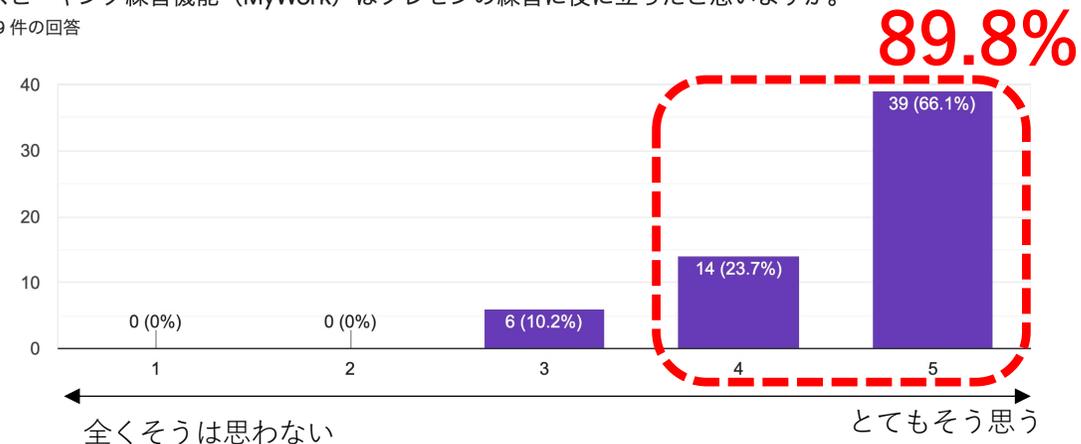
WorldClassroomで英語を学習する目的・意味が明確になりましたか？

59件の回答



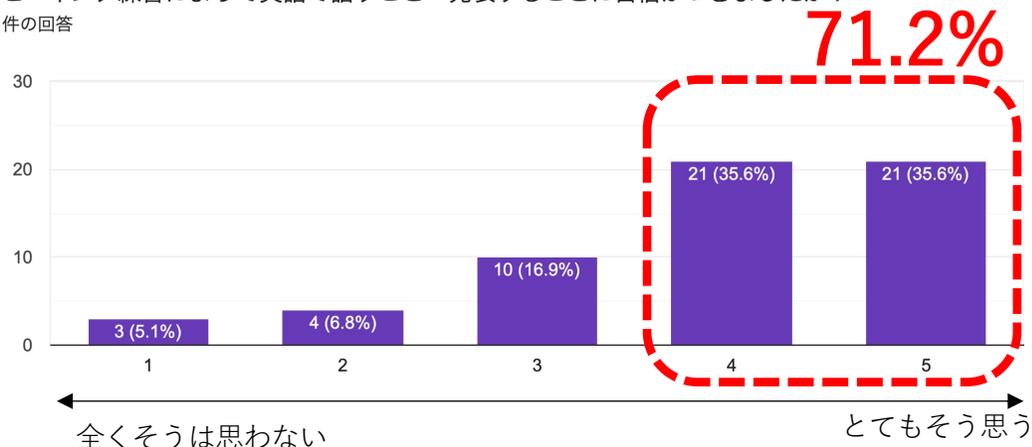
スピーキング練習機能（MyWork）はプレゼンの練習に役に立ったと思いますか。

59件の回答



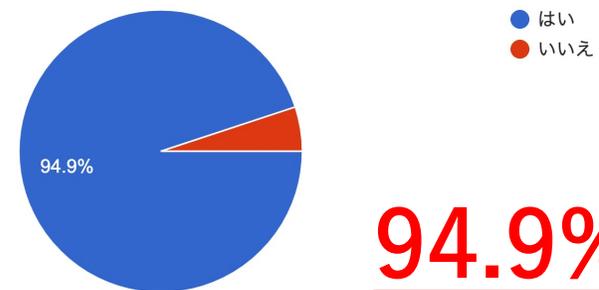
スピーキング練習によって英語で話すこと・発表することに自信がつけましたか？

59件の回答



これからもWorldClassroomを使いたいと思いますか？

59件の回答



94.9%

※欠席生徒(2名)のアンケートは実施できていない。

児童・生徒の学び方に及ぼした変化（生徒の実際の感想）

●認識率がでることによってスピーキング能力の向上や、やりがいを感じながら学習ができる！

「WorldClassroomがあることで、発音を改めることができるし、長い文章も音声見本があるからスラスラ読める！練習最初のうちは点数（認識率）が低かったりするけど練習重ねれば認識率が100%になることもあって、とてもやりがいがある。」

「自分が間違ったところが分かるし、点数が上がることで学習するモチベーションが出るのでこれだけ練習ができました。」

●スピーキング能力に加えて、リスニング能力も向上！

「自分のつくった原稿の発音や教科書に記載されている読み方の分からない単語について、AIの正しい発音を元に練習することができたのがとても良かった。発音が間違えていないかが分かるから練習がしやすい。間違えてもどこを間違ったかシステムが教えてくれるから自分のミスをすぐわかり便利だった。発音がわからなかった単語の発音が変わるようになったし、発音が良くなった。Rの発音とかが難しかったけど発音できるようになった。リスニング能力も上がったと思う。」

●英語を活用したいという動機づけにも繋がった！

「自分のつくったプレゼンテーション原稿について、あまり止まらずにスラスラ話せるようになってよかったです。ツールを使ってなんか自分が発音が悪いなところを改善でき、使いやすかったです。認識率のパーセントも上がりました。英語を自分の力で外国の人と話せるようになりたいです。英語で話す時にアイコンタクトとか表情を明るくするとか気をつけてやりたいと思います。」

●自学・復習にも活用できる。英検対策にも活用可能！

「覚えていない単語を機能で聞き返して覚えることができました。自分が今どんくらい英語を話せるかわかって、復習したりできた。英検の二次対策に使わせてもらいました。文章を入力し発音などをチェックすることで、本番では緊張せずに話すことができました。」



分析と考察

・いつでも何度でもシステムの音声を確認できる他、自分自身のスピーキングが1～100%の間で点数付けされることから、自ら学びに向き合うことができる。また、生徒それぞれのペースで学習することができる他、自分自身で上達を確認することができ、英語学習の動機づけに繋がる。

児童・生徒の学び方に及ぼした変化（教員から見た生徒の変化）

●練習結果が数値で可視化され、モチベーションが高まる！

「教師がクラス全員の個別指導をすることには時間的制約がありますが、WorldClassroomを活用することで生徒それぞれネイティブの発音を聞いてそれを真似して発表の練習をすることができます。認識率が%で表示されることで、生徒同士ゲーム感覚で競いながら練習ができています。生徒が海外学校交流やシステムを活用したプレゼン・音読練習を通じて、目的意識・主体性を持って英語学習に向き合うようになりました。自分で練習する内容を決めて自分で学ぶ、間違っていることはシステムが指摘してくれてそれを自分で修正するといったこれまでできなかった自学・主体的な学びができるようになりました。通常は音読やプレゼン練習は人前ではやりたくない生徒が多かったですが、システムを活用すると個別学習としてみんながやっているの、みんな恥ずかしがらずに練習に取り組むようになりました。」

●英語が得意でない子でも自主学習が可能に！

「自分で達成度がわかるので、英語が得意じゃない子たちも自分のペースで練習に取り組むことができていました。例えば、英語が苦手な生徒が、沖縄紹介と自己紹介の練習の時間に教室の隅っこでChromebookに向かってずっと練習していて、様子を伺ったら、だんだんと認識率が上がっていくのがとっても嬉しかったみたいです。最終的に認識率90%を超えたことによりかなり喜んでいました。システムを使わないときは、英語が苦手な授業についてこれなかったことも多かったですが、今回はシステムを通じて自分の上達が見れて英語にちょっと自信を持てたと思います。課題を1回も提出しない英語が苦手な子も積極的に取り組んでいたり、授業中に教師が介入せずとも全員が主体的にワークに取り組んでいる状態ができていました。」

●生徒自ら考え、英語学習に向き合うことが可能に！

これまで生徒らは少しでも分からないことがあれば、「先生！」と質問をしてきましたが、WorldClassroomを活用することで、まずは自分で発音や文法などをシステムでチェックし、それでも分からなければ他の生徒に質問し、それでも解決されない場合に初めて先生に質問するという、学習の流れに変化しました。ICT活用に生徒達は徐々に慣れてきて、プレゼンテーションを作成する際に分からないフレーズを教科書やDeepL（自動翻訳システム）で確認するなど、自学する力が向上しました。

分析と考察

従来の一斉授業形式だと生徒一人ひとりに細かな対応ができなかったが、WorldClassroomを活用することで、できる子には更に高い難易度の課題に挑戦してもらいながらも、できない子をフォローするような進め方が可能になる。 一人ひとりの特性や進度に応じた学びの提供の他、包摂的かつ公平で質の高い学びの提供が可能になる。

教職員の働き方に及ぼした変化（教員の声）

●生徒の英語学習のモチベーションを向上させることでスムーズな授業運営が可能に！

「認識率が出るというのが勝負心に火がついて、英語が得意な生徒も苦手な生徒も一緒になってお互いに指摘し合って学びあっているのがおもしろいと思います。自学を進め点数が上がっていくことで、無理やりやらせたり、動機づけをしなくても生徒のモチベーションがあがっていきます。生徒がモチベーション高く自主的に学習することで先生側のストレスがなくなることが大きな働き方改革です。」

●パフォーマンステスト準備・評価の時間を縮減！

「ALTとの時間調整が必要かつ、どれだけ時間がかかるか読めないパフォーマンステストが確実に決まった時間内で終わるので、授業計画が組みやすくなりました。これまでパフォーマンステストの進捗によって授業計画に変更の必要が出てきて、その度に準備や授業の工夫をする必要がありましたが、WorldClassroomによってその負担がなくなりました。パフォーマンステストのチェックについても、管理画面に表示されている原稿とプレゼンテーション動画を見てチェックすることで時間が縮減されます。一発勝負ではなく、何度も授業や家で練習した最高得点、また練習回数を評価できるので、知識技能の他、主体性に取り組む態度などもしっかり確認することができるのも良いです。」

●英検指導・スピーチコンテストなど授業外教科指導の時間を縮減！

「英検3級からは2次試験の音読や面接があるため、受験する生徒を放課後の時間を活用して指導にあたっているが、WorldClassroomを活用して過去の問題や参考書に記載されている内容の音読を練習させることで指導する時間が大幅に縮減できました。また、スピーチコンテストを実施する際には1ヶ月以上毎日の登校時間前や放課後の3時間以上、土日祝祭日も対応を行っていますが、WorldClassroomを活用することでプレゼンテーションを自学させることが可能になります。管理画面で生徒の学習状況を見ながら適宜、指導やフォローをする程度で済みます。」

分析と考察

英語教員はこれまで学習習熟度や主体性の異なる30～40名の生徒を対象に授業運営を行う他、成績評価、英検・スピーチコンテストなど授業外指導などの対応に追われていた。個別最適化された学習を実現することで生徒の主体性が高まり、授業計画・授業準備・評価付けや教科外指導の時間縮減により、ストレスや業務負担軽減を大幅に軽減できた。

教職員から見た英語の授業に対する考え方の変化（教員の声）

●英語が「言葉」であることの自覚

「英語の授業はこれまでReading、Listeningが中心でしたが、今回海外の学校交流を1つの目標にしたことで、英語は『言葉』であるということに気づきを与えることができました。そして、海外の同世代と交流するためにプレゼンテーションを何度も練習する、その交流での達成感や悔しさを日々の授業に活かすという流れになりました。これまでの英語の授業と比較すると生徒それぞれがいつもよりもかなり多くの英語を使うことができ、生徒の学び合いも多く生まれました。」（大宮中学校 英語教諭 仲地そのみ先生）

●交流のために英語を学ばせる大切さ

「点数を取らせるということも大事ですが、交流のための英語であることを学ばせる必要があることを教員が再認識しました。これまで3年生の高校入試で高い点数をとらせることから逆算して授業を行ってききましたが、海外校と交流する時期を予め決めることで、そこでコミュニケーションを成立させるためには何か必要かと考えていくと授業が変わっていくと思います。」（名護中学校 教諭 松田千草先生）

●授業改善をもたらすツールである

「WorldClassroomによって授業のスタイルを授業改善に大きく関わらせていると思っています。自分たち世代が学生の頃は教師主導だったのですが、変わっていかないといけません。世の中は予測不可能で日々新しい技術が生まれているのに、未だに教師私たちが教えなくてはならないと思っているのがおかしいです。そのために授業を改善する必要があり、WorldClassroomを活用できたらと思っています。今回、生徒が主役の学習者になっているということが授業の中で見れたのが大きいと思っています。」

「今までの評価は結果だけを見てきましたが、その過程や何に躓いたかを見える化することで、何を支援したら良いかわかるようになりました。数字というのはそういうためのものに今後なっていくと思います。」（名護市教育委員会 指導主事 千葉晶子先生）



分析と考察

(1)教員の業務負荷の高さ、(2)「発表」や「やりとり」の評価が難しい、(3)生きた英語を学ぶ機会が少ないという課題を解決することができる。

●効果検証の重要性

【課題】

本システムを用いることで、「学校教育の効果を常に検証して改善する」ための効果検証が一定程度可能になりました。しかしながら、個別最適化された学びや指導の実現のために、今後さらに集積されるデータを分析していく必要があります。

【改善策】

琉球大学大城賢名誉教授、與儀峰奈子教授、別府大学金城國夫専任講師とともに「生徒の英語学習の効果検証」に関する共同研究を開始しました。これにより、より質の高い効果検証を実現していきます。

●多忙な学校現場における啓発・普及

【課題】

名護中学校・大宮中学校の英語教諭は様々な取組を積極的に取り入れる英語の授業改善に前向きな先生達でした。一方で、学校現場は多忙を極めるため、普及の段階では、新しいシステムの活用について二の足を踏むことも出てくると想定されます。

【改善策】

英語教員や生徒たちへのシステム導入をスムーズにするために、様々な動画コンテンツや指導案のアーカイブ、定期的に教員を対象にした勉強会の開催などフォローアップ体制の充実を図ります。

●財源確保の課題

【課題】

学校現場では評価が高くても予算は教育委員会と財務課の間で決まることから、英語教育の枠を超えた本取組みの認知向上が必要です。また、公教育において裁量性のある予算が皆無であることも財源確保が難しい点です。

【改善策】

名護市は、持続性を考え、財務状況によって予算に変動のある市の一般財源ではなく、企業版ふるさと納税を財源とした事業化を現在教育委員会と企画課の間で調整を進めています。

商号	>HelloWorld株式会社
設立	2020年10月1日
資本金	1,000,000円
本社所在地	〒904-0004 沖縄県沖縄市中央1-7-8
関東拠点	〒100-0005 東京都千代田区丸の内3-3-1 新東京ビル4階 NEXs Tokyo内
代表者	代表取締役 野中 光
取締役	富田 啓輔（弁護士） 上里 幸俊（沖縄市市役所において部長職を歴任）
連絡先	info@hello-world.city
事業概要	まちなか留学：国内在住外国人宅ホームステイマッチング事業 WorldClassroom：世界の教室をつなぐ英語教育DXプラットフォーム
売上	2,555千円（2020年度）、30,000千円（2021年度見込）
主要取引先	<p>【WorldClassroom】 名護市教育委員会、那覇市立松島中学校、沖縄県立那覇商業高校、沖縄県立与勝高校、国頭村教育委員会、大宜味村教育委員会、4市町村留学委員会（南城市、北中城村、中城村、東村）</p> <p>【まちなか留学】 沖縄県教育委員会、うるま市教育委員会、大宜味村教育委員会、4市町村留学委員会（南城市、北中城村、中城村、東村）、JTB、日本旅行、ISA様などの旅行代理店</p>